

ボリビア国
オキナワ第3移住地入植者の手引

(1968年10月)



海外移住事業団



国際協力事業団

受入 月日	'84. 8. 20	702
登録No.	13242	23.4
		EM



目 次

第一	ボリビア共和国の概観	1
1.	自 然	1
2.	住民と主要都市	1
3.	歴 史	2
4.	政治と経済	2
5.	生活と文化	3
6.	日本人の移住	3
第二	オキナワ第3移住地概況	3
1.	移住地の自然条件	3
2.	移住地のあらし	4
3.	移住地の社会的条件	5
	(1) 附近の町と移住地	5
	(2) 交 通	5
	(3) 通 信	6
	(4) 農業協同組合	6
4.	入植者の生活	7
	(1) 住 居	7
	(2) 食 事	7
	(3) 飲 料 水	7
	(4) 物資の調達	7
	(5) 保 健 衛 生	11
	(6) 教 育	11
	(7) 治 安	11
	(8) 娯 楽	11
5.	現地における事業団の仕事	11
	(1) 移住地管理	11

(2) 造成工事	11
(3) 融資業務	12
(4) 援護業務	12
(5) 営農相談	12
第三 営農のすすめ方	12
1. 作物について	12
2. 営農の方法	13
(1) 農法について	13
(2) 短期作物	14
(3) 畜産	14
(4) 果樹、蔬菜	15
3. 将来の方向	16
4. 営農計画	16
第四 移住者の資格条件など	59
1. あっせん家族数	59
2. 資格、条件など	59
3. ロットの面積、土地代	59
4. 移住申込及び渡航手続	59
5. 渡航費用	59
第五 事業団の融資	60
1. 貸付の対象者	61
2. 貸付対象となる資金使途	61
3. 貸付金残高の限度	61
4. 貸付金の貸付比率	62
5. 貸付の期間	62
6. 担保及び保証人	62

第六	携行資金	63
1.	土地購入資金	63
2.	生活資金と営農資金	63
3.	携行荷物運着及び雑費	63
4.	農機具購入代	63
5.	渡航前後並びに船中生活に要する費用	64
第七	携行物資	65
1.	農機具	65
2.	生活関係物資	67
3.	一般的注意事項	69
第八	入植の経路	70
第九	通 関	71

第一 ポリビア共和国の概観

1. 自然

ポリビアは南米大陸のほぼ中央に位置し、隣りのパラグアイと同じく海のない内陸国で、総面積約110万平方キロ、日本の約3倍です。

国の西部はアンデス山脈が南北に走り、東部は熱帯降雨林となって広がり、河川はすべてアマゾン河の源流となっています。地形的には、西部コルディリェラと東部コルディリェラの2つの大山脈および周囲に雪をいまく連山で囲まれたアルティプラノと呼ばれる高い台地によって形成される高地地帯(全土の約 $\frac{1}{3}$)、アンデス山脈の東斜面に属し、峡谷と盆地により形成される峡谷地帯(全土の約 $\frac{1}{4}$)、東部の平地々帯(全土の $\frac{1}{2}$ 強)に大別されます。

国の首都ラパスは高地々帯にあって、世界最高所の首都であり、そのラパス市の空港がこれもまた世界最高所の空港といったように、この国には標高の高さで世界的なものが沢山あって、これらのことから一般に高山国、山岳国としての印象が強いのですが、実は平地々帯が全土の大半を占めているのです。

高地々帯は高度が高いために寒冷ないし冷涼で且つ雨量少なく、平地々帯は熱帯性気候で雨期(おむね10月～3月)乾期(4月～9月)にわかれます。(熱帯性気候といっても南のサンタクルス地方は、北のベニー、バンド地方と異なり暑さはそれ程厳しいものでなく、日中でも日陰に入ると涼しく、また夜になるとしのぎ易く、寝苦しい暑さといったことは多くありません。) このようにポリビアの気候は地域によって寒いところから、暑いところまで様々です。

2. 住民と主要都市

この国の人口は約400万人、土着人(アイマラ族、ケチュア族(約55%を占める)の高地部族及び低地部族)、白人、それと土着人との混血、その他によって構成されています。

首都ラパス市(LA PAZ)は海拔3,700m高地々帯にあって人口約40万、政治・経済・文化の中心地でありわが国の大使館もここに 있습니다。

コチャバンバ(COCHABAMBA)は、ラパスの東南方500kmにあり、ヨーロッパの植民者達が高地々帯の寒冷と酸素不足、低地々帯の暑さや病虫を避けて求めた海拔2,500mの別荘地帯で人口13万の商業都市です。

サンタ・クルス県の県都サンタ・クルス市(SANTA CRUZ)は更にコチャバンバの東方

500Kmの低地帯にあり、人口はこの10年間に約2倍という急激な膨脹をみて約11万、ブラジル、アルゼンチン両鉄道の基点にあたり、近年、穀倉地帯として、また石油地帯として脚光を浴び、3年前までの砂塵の町は面目を一新して、上下水道の完備した、美しい舗装道路の街と変りました。平均気温23℃、雨量1,500mm前後、県内には「サンファン」及び「オキナワ」の両邦人移住地があります。サンタ・クルスの住民は前の2つの都市の住民とは民族的にも、気質的にも異なり、熱帯的な環境風物とマッチして明るく解放的・楽天的です。

わが国の領事事務所、移住事業団のサンタ・クルス支部があります。

3. 歴 史

ボリビアはその昔、広大な勢力と高度の文化を誇ったインカ帝国の一部でしたが、1535年インカが滅亡するとアルトペルーと呼ばれスペインの植民地となり、1825年になって独立しました。その後はチリー戦争(1879)に次ぐ、パラグアイとの戦争(1932~1935)により海と男を失って領土はせばまり、国力はとみに衰退してしまいました。そして、長い政治的混乱と民衆の窮乏が続きますが、1952年革命が起り、新しい政権(MNR-国民革命運動党)によって鉱山の国有化、農地改革等が漸行され、これが新しい国家建設の基礎となりました。

1964年再びクーデターによってMNRによる政権は倒れ大統領パス・エステンソールはペルーに亡命、軍事政権が樹立されて現在に至っています。

4. 政治 と 経 済

ボリビアは中央集権的な政府をもつ共和国です。全部で9つの行政区(県)にわかれ、その県知事は大統領によって任命されます。

現在の政権はクーデターによる軍事政権ですが、その政策はおおむね1952年のMNRによる革命政権の路線を継承してきています。

ボリビアの経済は1962年以来高度の成長を持続しており、実質国民総生産の年平均増加率は1958年から61年にかけて2%のところ、1962年から65年にかけては5.8%に高まってきています。

農牧業は国民総生産の28%を占め、総就業人口の約60%を占めていますが、その生産力は低く、一般に自給自足の域を脱していません。

鉱業生産(石油を除く)は国民総生産の8.2%、鉱業従事者は48,000人で、総就業人口

の3%にすぎませんが、鉱物輸出は輸出総額の95%を占め、鉱業はボリビア経済の大黒柱となっています。

5. 生活と文化

生活は貧富の差により、また山岳地帯とか平地々帯とかの住んでいる場所によっても異なりますが、一般にいわれるラテン・アメリカ風なキリスト教(カトリック)に基盤が置かれた伝統的といえる悠長な気分のものです。

全人口の半分以上を占めるインディオは今でも彼等の言葉(アイマラ語、ケチュア語)彼等独自の風俗・習慣を固守していますが、国の言葉はスペイン語であり、宗教はカトリック教が大部分です。

政府は、教育には特に力を入れています。まだ高い文盲率を示しています。教育制度は初等教育(小学校)が6才以上の義務教育で6年制、中等教育が4年制(大学進学のためには更に2年の課程を必要とする)となっています。大学は法・文・医・工・農各科により修業年限を異にし7枚あります。

6. 日本人の移住

わが国とボリビアとの国交は大正5年(1916)の通商条約から始まりました。戦前邦人のボリビア移住は主にペルーから天然ゴム採取を目的として行なわれ、地名からも邦人とのゆかりを偲ぶことができます。

戦後はボリビアとの移住協定もできて(1956年)、サンタ・クルス県にはサンファン移住地(261戸)、オキナワ移住地(448戸)があり、農業的に大きな存在となってボリビア国の農業開発に貢献しています。

第二 オキナワ 第3移住地概況

1. 移住地の自然条件

(1) 位 置

南緯17°60′、西経62°70′に位置し、サンタ・クルス県ワルネス郡トコメチ村に属します。

(2) 標高、地形

標高は海拔約400mで、地形は起伏がなく、ほとんど平坦です。

(3) 地質、土壌

埴質壤土地帯が80%、砂質壤土地帯が20%を占めています。特に耕作不適地はなく、土地はかなり肥沃といえます。

(4) 植生、林相

原始林はサンファン移住地に比較してやや小型です。これは、サンファンより降雨量が少ないことと、埴質壤土地帯が多いことによります。

クチ、ウルパウが多数生育し、建築用材としては、クララ、マラ、アマリーリョ、セードロ等があります。

(5) 気 象

移住地内において気象観測を行っていないので、近くにある国立サーベドラ試験農場の観測値を次表に示します。

観測期間 (1952年～1962年)

区分	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月
平均気温(℃)		25.5	25.7	24.1	23.0	21.2	19.6
平均雨量(mm)		288.5	151.8	102.4	104.1	63.4	65.0
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
	19.0	21.3	24.1	24.9	25.1	26.6	23.4℃
	52.8	27.4	71.2	106.8	120.4	180.7	127.23mm

2. 移住地のあらまし

オキナワ移住地は、北から第1移住地、第2移住地、第3移住地の順で隣接しており、一つの移住地と考えた方が適当ですが、一応、形の上ではそれぞれ独立した格好となっています。最も歴史の古い第1移住地には、昭和29年8月にポリビアに到着した琉球政府の計画による第1次移住者60家族が、ウルマ地区、パロメティーリャ地区を経て、昭和31年、現在の場所に入植し、その後、後続移住者を迎え、現在231家族が入植しています。面積は13,049

haを有します。

— また、第2移住地は、面積16.744haを有し、昭和34年の入植開始から数次に亘る入植を重ね、現在160家族が居住しています。

— 一方、第3移住地には、昭和37年4月から入植が開始され、現在まで57家族が入植しています。本移住地は、面積18.321haを有し、第2移住地、第1移住地とは、三つの移住地を結ぶ縦貫道路で連絡されており、各移住地センター間の距離は、第3～第2間1.8km、第2～第1間が1.6kmです。

3. 移住地の社会的条件

(1) 附近の町と移住地

ア. サンタ・クルス市(第3移住地より5.5km) サンタ・クルス県の県庁所在地で、人口約11万人。国立総合病院、国立大学、各種銀行、映画館(8館)その他公共施設が整っています。サンタ・クルスは、近年急激に発展し、今ではラパス、コチャパンバに次ぐ、ボリビア第3の都会となりました。

イ. モンテロー(第3移住地より、第1移住地を経て7.6km)

サンタ・クルス市北部4郡の中心地で、サンタ・クルスと同様、急テンポの発展ぶりを見せて、現在、人口は2万人に達しています。

ウ. ワルネス

第3移住地の西、サンタ・クルス～モンテロー間国道のほぼ中間にあり、人口約5千人。

エ. サンファン移住地

オキナワ三移住地のほかにある、もう一つの日本人移住地で、第1移住地の西方に位置し、第3移住地からの距離は、第1移住地を経て、約150kmあります。現在入植者数261家族。

オ. メノニツタ移住地

サンタ・クルス市から第3移住地に向う途中にあり、ドイツ系移住者が多く入植しています。

(2) 交通

ア. 道路

サンタ・クルス市から第3移住地間5.5kmの交通は、主に農協のトラック便を利用していますが、その所要時間は1時間～1時間半程度です。

一方、サンタ・クルス市から、ボリビア第2の都会コチャバンバ市(サンタ・クルス市から約500Km)を経て、首都ラパス市(コチャバンバから、さらに500Km)に至る国道が通じており、大型バスが毎日数本運行し、サンタ・クルス〜ラパス間の所要時間は24時間(コチャバンバまでは12時間)で、国内主要都市との連絡も非常に便利になっています。

イ. 鉄 道

サンタ・クルス市は、ボリビアの交通の要衝にあたり、ブラジルのサントスおよび、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスから、それぞれ国際列車が乗り入れています。

ウ. 航 空 路

サンタ・クルスから、アルゼンチンの首都ブエノスアイレス、ペルーの首都リマへはそれぞれ毎週1往復、ブラジルのサンパウロへは毎週3往復の国際線があり、国内線では、コチャバンバ、ラパスへは、日曜日を除く毎日1ないし2便があり、このほか、スクレ、タリハ、トリニダー等各都市とも毎週数回の連絡便があります。

最近、サンタ・クルスからモンテローロに向う15Km地点に新国際空港の建設が正式に決定し、新空港完成后は、国際線はもとより、国内線の連絡もさらに便利になることとなります。

(3) 通 信

郵便局、電報局、電話局はサンタ・クルス市にあり、入植者の郵便物の発送、收受は農協を通じて行なっています。

(4) 農業協同組合

昭和37年8月に設立された任意組合の第3コロニア沖繩農業協同組合は、移住地センターに本部事務所を置き、生産物(主として米)の販売あっせん、生活必需品の購買、精米、運輸、機械賃耕等の事業のほか、広報、教育、行政といった日本の村役場がやるような業務も併せて行なっており、現在、入植者の家長全員57名が組合員となっています。この組合への出資金は\$5,320-(約27ドル)です。

また、三つの移住地の各農協参加のもとにオキナワ移住地連合会が結成されています。連合会は事務所をサンタ・クルス市に置き、米の共同販売、購買物資の共同購入等のほか、育英事業も併せて行なっており、三移住地の協力体制に色々な役割を果たしています。

4. 入植者の生活

(1) 住 居

移住地に到着した移住者は、2～3週間宿泊施設に泊り、その間に自分の土地に家を作って本格的に入植することになります。

(2) 食 事

入植者の食事は日本におけると同様、米食を主としていますが、日本より暑いところであり、また、開拓はかなりの重労働ですから、油や肉、卵、牛乳等を多くとるように食生活に気を配る必要があります。

米は、当然自給していますが、鶏や豚の飼育も容易にでき、また、牛を導入すれば自家消費を満たす位の牛乳は得られますから、やり方次第で自給体制はとれる訳です。

酒は、国産のビール、ブドウ酒のほか、シंगाニ（ブドウから造った蒸溜酒）があり、アルゼンチンその他からの輸入酒もあります。

(3) 飲 料 水

現在までの調査結果では、第1移住地、第2移住地に比べて条件が良く、平均18m程度の井戸（浅層井戸）を掘れば飲料水が得られます。なお、場所によっては、2～3年経過すると浅層井戸水に塩分が混入するところもあり、この場合は自己資金によって打込井戸の設置が必要となります。

(4) 物 資 の 調 達

移住地センターにある農協購買部で、日用品雑貨、衣料品、小農具等は大体購入できます。高級品や特別な品物はサンタ・クルスまで出掛けて買うこととなります。

物 価 表

単位：ドル

品 名	単 位	金 額	入手 難易	品 名	単 位	金 額	入手 難易
(食 料 品)				魚 缶 詰	缶	0.25	易
米	kg	0.17	易	コ ー ヒ ー	箱	0.13	"
麵 類	"	0.25	"	紅 茶	"	0.13	"
牛 肉	"	0.58	"	ビール(ラパス製)	本	0.50	"
豚 肉	"	0.58	"	"(サンタクルス製)	"	0.30	"
豚 油	ポンド	0.25	"				
鶏 肉	kg	0.67	"	(日常家庭用品)			
食 用 油	5ℓ	3.00	"	ベツト(ダブル)	台	13.00~30.00	易
酢 酸	ℓ	0.50	"	"(シングル)	"	17.00~40.00	"
小 麦 粉	ポンド	0.08	"	机	"	17.00~35.00	"
馬 鈴 薯	"	0.07	"	椅 子	脚	1.70~4.20	"
落 花 生	アローバ	3.00	"	ナ ベ	1ヶ	1.70~25.00	"
人 参	ポンド	0.08	"	釜	"		難
玉 葱	"	0.08	"	皿	枚	0.80~4.20	易
キ ャ ベ ツ	"	0.17~0.50	"	茶わんドンブリ	ヶ		難
パイナップル	"	0.08	"	ス プ ー ン	本	0.08~0.80	易
西 瓜	"	0.42	"	フ ォ ー ク	"	"	"
バ ナ ナ	房	0.42	"	ナ イ フ	"	"	"
大 豆	アローバ	1.50	"	コ ッ プ	ヶ	0.80~0.42	"
ト ー モ ロ コ シ	"	0.83	"	ラ ン プ	"	0.25~25.00	"
柑 橘	"	0.50	"	ホ ー キ	本	0.75	"
塩	500g	0.03	"	マ ッ チ	箱	0.03~0.04	"
砂 糖	ポンド	0.06	"	ロ ー ソ ク	本	0.13~0.25	"
ミ ル ク(粉)	1箱(小)	1.00~1.67	"	石 け ん	"	0.15	"
味 の 素	100g	0.63	"	粉 石 け ん	ヶ	0.30	"
ソ ー セ ー ジ	缶	0.50	"	金 タ ワ シ	"	0.01	"
マ カ ロ ニ	kg	0.25	"	ロ ー ソ ク	"	0.30	難

品名	単位	金額	入手 難易	品名	単位	金額	入手 難易
バケツ	ケ	0.83~1.50	易	運動靴	足	1.40~2.10	易
懐中電灯	"	0.83~2.50	"	女物靴	"	2.00~5.00	"
乾電池	組(2ケ)	0.40	"	長靴	"	5.10	"
自転車	台	40.00~60.00	"	靴下	"	0.46	"
ミシン	"	70.00~130.00	"	タオル	"	0.67	"
ノート手帖類	冊	0.08~0.25	"	手拭	"		難
鉛筆	本	0.01~0.08	"	チャック(20cm)	本	0.08	易
ボールペン	"	0.30~0.35	"	ボタン	ケ	0.04	"
セロテープ	巻	0.25	"	草履	足	0.83	"
インク	瓶	0.13~0.17	"				
マジックインク	本	0.17	"	(営農資材)			
ジャンパー	ケ	0.04	"	釘	kg	0.51	易
脱脂綿	箱	0.75	"	針金	"	0.50~0.83	"
洗面器	ケ	1.30~2.00	"	波トタン	枚	1.40~2.10	"
				平トタン	"	3.50~3.90	"
(衣料品)				マッサドン(平鉄)	本	1.00~1.90	"
シャツ	着	3.00~3.50	易	山刀	本	1.60	"
作業シャツ	"	1.30~1.70	"	斧	"	2.00	"
ズボン	"	4.00~7.50	"	パーラ(除草用 スコップ)	"	0.75~1.70	"
布地(タロン)	m	5.00	"	スコップ	"	1.50~3.40	"
"(並)	m	0.40~1.30	"	播種器	"	8.00~12.00	"
毛糸	巻	0.46	"	有刺鉄線	巻 400m	120.00	"
背広(上下)	着	50.00~170.00	"	板	1ピエ	0.07~0.10	"
毛布	枚	5.00~11.00	"	尿素	kg	0.25	"
シート	"	1.70~5.00	"	魚粉	"	0.33	"
スカーフ	"	0.83	"	岩塩	"	0.20	"
靴(皮靴)	足	4.00~13.00	"	貝ガラ粉	kg	0.05	"
作業靴()	"	1.70~4.00	"	ギボン (配合養鶏飼料)	"	0.04	"

品名	単位	金額	入手 難易	品名	単位	金額	入手 難易
ナムラ	袋	6.70	易	脱粒器	台	67.00~83.00	難
2-4-D	本	2.00	"	グライダー	"	5.00~17.00	易
DDT	"	0.50	"	トラクター	"	5,000.00~ 8,300.00	"
硫安	kg	0.25	"	ハンドトラクター	"		難
エルドリン	本	4.00	"				
アルドリン	kg	1.35	"	(薬品)			
麻袋(大)	枚	0.45	"	ブドウ糖	アンプル	0.20	易
木綿袋(中)	"	0.33	"	ビタミンB1	錠	0.06	"
ガソリン	ℓ	0.08	"	クロロマイシン	gr	0.15	"
ディーゼル	"	0.07	"	ブスコパン	錠	0.12~0.17	"
石油	"	0.06	"	ペニシリン	アンプル (400000)	0.12	"
オイル	"	1.00	"	ストレプトマイシン	gr	0.17	"
散粉器(動)	台	125.00	難	ララマイシン	カスプル (250mg)	0.20~0.50	"
"(手)	"	33.00	易	ブレナタール	カスプル	0.04~0.08	"
噴霧器(動)	"	170.00	難	バス	錠	0.03	"
"(手)	"	38.00	易	コラミン	アンプル	0.30	"
脱穀機	"	125.00~170.00	難	コワグミン	"	0.30~0.67	"
シーK(6×7m)	"	100.00	易	グロンサン	錠	0.03	難
ポンプ渦巻	"	420.00	"	ビタミン	"	0.05~0.08	易
"(手動)	"		難	アスピリン	"	0.01	"
エンジン(1HP)	HP	67.00	"	ルミナール	"	0.05	"
ヤスリ類	本	0.17~3.30	易	レファガン	"	0.04	"
もみすり機	台	170.00~420.00	難	ビタミンC	アンプル	0.08	"
精米機	"	830.00~500.00	"	"A	錠	0.15	"
乾燥機	"	50.00	"	"B2	アンプル	0.67	"
大道具(現地式)	式	42.00	易				
粉碎機(動)	台	170.00~250.00	難				
ミスト兼用機	"	170.00~250.00	"				

(5) 保 健 、 衛 生

移住地センターに診療所があり、看護婦1名が常駐しているほか、第2移住地にあるオキナワ移住地総合病院の2名の日本人医師が交替で診療にあたっています。大抵の病気はこの診療所または総合病院で処置していますが、特に重傷、大手術を要する場合は、患者をサンタ・クルスまで輸送しています。移住地には、特に風土病や伝染病はなく、健康地といえましょう。

(6) 教 育

移住地センターに小学校が1校あり、7名の教師（日本人二世6名、ポリビア人1名）により、熱心に教育が行なわれています。また、中学校が第1移住地にあり、現在、3学年の生徒が勉学しています。

(7) 治 安

移住地センターにサンタ・クルス県警察本部から派遣された警察将校、警察官各1名が駐在し、治安維持にあたっています。

(8) 娯 楽

一般に娯楽は乏しいですが、日本の雑誌、レコード類は現地で入手でき、また、魚釣りや猟を楽しむこともできますし、時々、移住地内で映画会が開催されます。なお、第1移住地には、日本人経営の映画館があり、週2回程度各国の映画を上映しています。このほか、年2～3回、各種球技大会や運動会が行なわれています。

5. 現地における事業団の仕事

事業団支部がサンタ・クルス市にあるほか、現場の事務所として、オキナワ事業所（第1移住地内）とサンファン事業所があり、それぞれ、所長以下数名の職員が配置されています。

第3移住地の入植者の世話は、オキナワ事業所がこれにあたっていますが、大体次のような仕事をしています。

(1) 移 住 地 管 理

移住地の治安維持、関係官庁との折衝、土地問題や境界線問題紛争の調停などを行なっています。

(2) 造 成 工 事

オキナワ三移住地の地区内道路延長19.5kmの水格的改修工事を実施すべく、目下、関係当局と予算折衝中ですが、これが実施できれば、雨期における道路問題はまず解決されるで

しょう。また、同時に第3移住地の残地のロッテ造成計画についても予算を要求している段階です。

(3) 融 資 業 務

移住者からの融資の相談、申込の受付、資料の取りまとめ、意見進達、貸付業務債権の管理等を行なっております。

(4) 援 護 業 務

一般的に、入植当初、移住者だけの力ではできない公共施設の建設、整備や、受入施設建設のほか、日本からの医師派遣、学校教師のあっせん、農協の助成、指導その他移住者の世話を行なっております。また、看護婦、教師の謝金、移住者子弟の育英助成金、農協に対する助成金等も一部事業団で負担しています。

(5) 営 農 相 談

事業団では、農業の専門技師や畜産技師を配置し、移住者の方の営農相談に応じています。

第三 営農のすゝめ方

1. 作物について

さきに第一ポリビア共和国の概観や第二オキナワ第3移住地の概況のところでも述べましたように、ポリビアの自然は地理的にも気候的にも多様性に富み、寒いところもあれば、暑いところもあるのですが、オキナワ第3移住地は緯度、標高からみてわかるように比較的暑いところに属します。

従って、移住地の作物としては主として熱帯、亜熱帯のものを多種考えることができます。そしてまた、暑いといっても年中一様に暑いのではなく乾期の5～6月頃は肌寒い日が続き、この時期をうまく利用して小麦を作ることができ、野菜では結球白菜や玉葱、馬鈴薯なども可能です。こうしてみるとやり方によっては極めて豊富な種類の作物ができるのですが、実際に経営にとり入れられるものはその作物の経済性によって制約を受けせまってきます。オキナワ第3移住地の周辺は一般に甘蔗栽培の地帯であり、また近くに綿綿工場の直営農場があって棉花を栽培していますが、同移住地の営農は隣接の第2、更に第1移住地の過去の経験から割りだして最も換金性の高い米と米作偏重の危険性を緩和すると同時に近年市場の見通しもよく重要な作目となっている肉牛の放牧との二つに力点がしぼられます。

この二つの作目を主とした営農の方法は次に述べますが、こゝでの農業は日本で行なってい

る農業とは全くその趣きを異にするといつて過言ではありません。近年の日本における経済の急速な高度成長と構造改善の潮は近代化の方向に向つて農業乃至は農村の姿を全く変貌せしめました。そしてきめ細かく整備された流通機構の中にあつて農業は今や高度に能率化され、経営も集約化を極めています。

このような状況からみるとボリビアの農業は正にひと昔前ということができましよう。こゝでの當農確立の前提としてまずいえることは、経営にあたり現金支出をできる限り抑えるということでありませう。即ち、日本におけると同じようにより値のよい作物を重点的につくつて収入を得、あとはすべて買うといつた方法によるのではなく、生活に必要な作物は果樹、蔬菜、鶏などはもとより紐の材料となる麻のようなものまで何でも作り、少し経済性の低いものでも危険分散のために作付するといつた心構えが要諦です。換金性が高いからといつてそれ一本槍の投機的當農は必ず破端がきます。かういふ大陸での農業は、速度は遅くとも、イキのながい見通しに立つた確実な歩みが大切です。

2. 當農の方法

(1) 農法について

日本において開拓農業を始めようとするときを考えると山林或いは原野の開墾が最初の仕事です。

オキナワ第3移住地における當農も最初は密林の伐開から始まります。分配をうけるロッテ(区画割)は50ha(約50町歩)で全面密林に覆われています。密林の伐開は乾期がくると始まり、概ねまず下刈りをしてから斧による伐木に入りますが、樹の種類によっては堅くてきれないものもあり、また容易にタテ裂きになるものもあり、或る程度馴れないと危険ともなうので初めは先輩や人夫などの伐木の仕方を見習うのが普通です。

木をきり倒すと、燃えやすくするための枝打ちという作業を行なつて放置し、乾燥させます。やがてたね播きが近くなるとこの乾かしてある山を焼きますがこれを「山焼き」といつて、この焼き方によつてその年の作柄が決まるとされ重要です。それは、山がよく焼けると利用できる面積が多くなり、雑草の生え方や虫害等も少くなるからです。播種の適期というのは播種後降雨のあることが理想的ですから、勢い山焼きも乾かすだけ乾かし天候がそろそろ降り坂になる直前その頂点を狙うため、往々にして当りはずれがあるのですがはじめは先輩の指導に従うのが無難でしょう。

山焼きのあとは寄せ焼きといつて焼け残りを集積して焼き払い整理をします。そのあと作

付を行なうわけですがこのような方法による農業を焼畑農法といふ、ボリビア東・北部低地地帯における最も一般的なものです。このような方法によって三作とった雨期明け後の状況は、残株、残根からの再生等による雑草が繁茂しそのままにするとすぐ再生林となります。再生林は3～4年してまたこれを伐開・山焼きをすることにより作付することができます。現住民などは一作とると再生林にしてしまうのが普通です。

(2) 短期作物

一般に、短期、長期の別にかかわらずほとんどすべての作物は焼畑方式によって作付されます。主な短期作付としては陸稻、玉、大豆その他粟類、落花生等がありますが、ここでは最も重要な陸稻について現行栽培のあらましを述べてみましょう。

山焼後、理想的には降雨の前に播種しますが、それは焼畑農法に最も合致する点播で独得の播種機を用いて行ないます。

このあとは除草で、バラという農機具によって通常原始林伐開のあとなら一回、再生林のあとなら2～3回が必要とされます。

病虫害についてみると、サンファン移住地にはカトムシによる虫害があり防除は必至ですがオキナワ移住地では現在においてはさしたるものがなく防除は今のところそれ程重要視されていません。

収穫は、慣行では根元から刈取るのではなく穂摘みが一般的です。収穫は最も労力を必要とし、大抵の場合雇用労力にまたねばなりませんので、労働者の使い方は最も効率的であることを要します。

作られている稲が一般に脱粒性の高い種類であるため脱穀は比較的簡単です。脱穀後は組合などの精米所へ運んで精米し、販売に供します。

米は国内需要向けですが、最近1人当りの消費が増加してこゝ暫くはまだ不足する見通しです。

その他のトモロコシ類、豆類等の短期作物の栽培については日本における栽培を想定してそれ程の差異はありません。

(3) 畜産

オキナワ第3移住地の地帯では、現状において、換金性に富み、そして、経済的に安定した永年の作物がなく、一方短期作物だけに頼ることは、経済的に決して望ましい形とはいえないのですが、ここに一つ、この様な奥地の、いわば遠郊の農業圏に属する地帯の方法として牧畜があります。それは少労力をもって行ない得る肉牛の放牧で、幸い肉牛は相当の園内

需要があるので、今後も有望な作目の一つです。

牧畜を行なうために牧野を造成してゆくことは前にのべた一作あとの再生林化を防ぎ、あくまでも一度伐開に投下した資本の回収を有効にはかってゆくところに意義があり、また、短期作の市場に少々の変動があっても牧場と牛という資産があれば決して心配する必要がありません。

オキナワ第3移住地での営農は前述の米作によって得た資金を短期作の拡張へ再投資するのではなく、営農基盤の確立のための投資として、牧場の造成・整備や耕地造成に向けるのが基本的なあり方であるといえます。肉牛の放牧は牧柵の設置、種牝、牡牛の導入に多額の資本を必要とし、一方その生産には長い年月を要するので、この間の資金回転のために、養鶏、養豚を経営にとり入れることが望ましく、幸い両者ともサンタ・クルス市の人口の増加にともなって需要も多く、今のところ販路には事欠きません。畜産を行なうにあたっていうまでもないことですが、南米には日本にはないアフトーザ（口蹄疫）などという恐い牛の伝染病もあり、家畜の防疫には意を用いねばなりません。もし、このような家畜の伝染病や、その他営農上、困った問題が起ったときには、気軽に事業所へ相談して下さい。事業所ではサンファンにある試験農場やその他関係方面と連絡をとり、問題解決に努めています。

(4) 果樹、蔬菜等

この地方の主な果樹としてはパイナップル、マンゴー、パルタ（英名アリゲータ・ペア）、柑橘類がありますが、極めて豊富で市場価値は低く、むしろ家庭果樹の域を出ないといった方が無難でしょう。

この他に嗜好作物であるコーヒー、カカオ、茶等すべて栽培可能ですから自家用とする目的で作っておくことは大変有利です。

蔬菜についてみますと、日本でできる夏蔬菜はすべて可能で、それに大根、白菜、ごぼうなども時期を選ぶことにより作ることができます。これに加えてパイナップル、バナナ等の熱帯蔬菜があり種類はかなり豊富です。これらの作物をその時期に応じていつでも何かを作っていることは、現金支出を抑えることから、栄養の面からも極めて大切なことで野菜を買って食べるようであると決して営農はうまくゆかないものです。

3. 将来の方向

前に述べました焼畑農法は在来の農法であって、この土地でのやり方として種々マッチした点を有してはいるものの、反面、低生産性、天候に支配されることの多い危険性、投下資金回収率の低いこと、所要労働力の多いこと等、多くの欠点があります。またこの農法をいつまでも行なっているのは、作物の価格変動や、生産増加による価格低下に対して弾力性がなく、到底ついてゆくことができません。

コストの低減をはかることが第一の目的ですが、国内の労働事情ポリビア人の日本人観等からいっても機械力による農法の近代化は必至であるといえます。といて、今急激に現在の方法から脱皮しようとして、いきなり原始林をブルドーザーで伐開したりすることは資金面、その他いろいろな難点があります。そこで当初の段階では焼畑によって原始林を伐開してゆき、一方では牧野を造成し、もう一方では原始林伐開から数年間作付を行なったところをブルドーザーで抜根して耕地を造成してゆく方法をとります。

即ち、営農の将来の方向は、米作の機械化と牧畜であって、当分の間はこのような営農の基盤づくりです。

4. 営農計画

次に掲げられてある営農計画は以上のような観点から作成されたオキナワ第3移住地における標準的なもので、その概要は次の通りです。

(1) 計画にとり入れる作物及び家畜

主作物 陸稲

その他 トーモロコシ、大豆(緑肥)、牧草

主家畜 肉牛

その他 豚

(2) 土地

(1) 計画完成時の土地利用

宅地	5 ha
陸稲	8 ha
トーモロコシ	3
大豆	(2)
緑肥(裏作)	(6)

緑 肥 5 ha

(陸稻、草地 of 休裁、地力維持)

草 地 27

薪 炭 林 2

合 計 50 ha

(3) 携 行 資 金

\$ 20,000 (邦価60万円、米貨約1,670ドル)

(4) 家 族 構 成

夫 (30~55才)

妻 (30~55才)

男子 (15~25才)

女子 (10~20才)

男子 (10~20才)

(5) 農 年 区 分

自 7 月 ~ 至 6 月

① 開墾および土地利用、作付計画表

区分	年度	1	2	3	4	5	6	7
機械開墾面積		2ha	2	2	4			
機械開墾費用※		1,226\$ ^b	1,226	1,226	2,452			
延開墾面積		2ha	4	6	10			
焼畑開墾面積		12ha	6	4	3	3	3	
焼畑開墾費用		2520\$ ^b	1,260	840	630	630	630	
延焼畑開墾面積		12ha	18	22	25	28	31	
短期作物名	陸 稻	10ha	10	10	11	11	11	8
	マ イ ス	4	8	6	4	3	3	3
	大 豆		(2)ha	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	緑肥(裏作)		(2)ha	(4)	(4)	(6)	(6)	(6)
	緑肥(表作)			2ha	2	2	5	5
永年作物名								
宅 地		5ha	5	5	5	5	5	5
草 地(人工)			4ha	12	18	22	25	27
林 地(人工)		2ha	2ha	2	2	2	2	2
自然林、原野		29ha	21ha	15	8	5	2	0
そ の 他								
合 計		50ha	50ha	50	50	50	50	50

註 1. 間作による作付面積は()を付した。

2. 7年目の草地27haは累計では28haになるべきであるが前年度の自然林が2ha

12ペソ(\$b) = 1ドル

8	9	10	11	12	13	14	15	備 考
								ha 当 時 613 プルドーガ35×175= ha 当 210
8 3 (2) (6) 5	8 3 (2) (6) 5	8 3 (2) (6) 5						莠作栽培 陸稲草地の休栽 地力維持
5 27 2 0 50	5 27 2 0 50	5 27 2 0 50						

であるためマيس作に1haあてるから27haとなる。

② 固定資産家畜整備計画表

区分		年度		1	2	3	4	5	6	7
建 物 設 備	開 墾 費	1,226	1,226	1,226	2,452					
	住 宅	1,600							12,500	
	倉 庫	1,800							12,000	
	豚 舎	1,800							1,800	
	牧 場		2,400	1,920	1,920	1,200	1,200	960		
	牛 水 吞 場		400							
	牛 追 込 場		500							
井 戸	3,600									
農 機 具	ト ラ ク タ ー						24,000			
	エ ン ジ ン	4,000								
	脱 穀 機	1,500								
	脱 粒 機	1,000								
シ ー ト	1,800							1,800		
家 畜	乳 牛		11頭							
	肉 牛		12,000							
所 要 資 金 合 計	豚	3頭	700							
	土 地 代	1,226	1,226	1,226	2,452					
	開 墾 費	8,800	3,300	1,920	1,920	1,200	27,500	960		
	建 物 設 備	8,300			24,000		1,800			
大 農 具	700	12,000								
家 畜										
計		19,026	16,526	3,146	28,372	1,200	29,300	960		
開墾費以下合計（固定資産）										

註 1. 家畜については購入したもののみを記入した。

(単位：ペソ、ポリビアーノ)

8	9	10	11	12	13	14	15	備 考
								$\left\{ \begin{array}{l} 40 \times 40m^2 = 1,600 \text{ やし葺瓦} \\ 250 \times 50m^2 = 12,500 \text{ 煉瓦} \\ 30 \times 60m^2 = 1,800 \text{ やし葺瓦} \\ 200 \times 60m^2 = 12,000 \text{ 煉瓦} \\ 30 \times 60m^2 = 1,800 \text{ やし葺瓦} \end{array} \right.$
	24,000 4,000 1,500 1,000							1台 120,000 5人共同 2枚
								$\left\{ \begin{array}{l} \text{♂} 1頭 2,000 \\ \text{♀} 10頭 10,000 \\ \text{♂} 1頭 300 \\ \text{♀} 2頭 200 \times 2 = 400 \end{array} \right.$
	30,500							
	30,500							

③ 耕種作物生産計画表

作物名		単位	1	2	3	4	
短期作物	陸 稲	数量	アローバ	1,340	1,380	1,420	1,590
		金額	\$b	21,440	22,080	22,720	25,440
	マ イ ス	数量	アローバ	800	1,600	1,200	800
		金額	\$b	4,000	8,000	6,000	4,000
	大 豆	数量	アローバ		160	160	160
		金額	\$b		1,920	1,920	1,920
		数量					
		金額					
		数量					
		金額					
	永年作物		数量				
			金額				
		数量					
		金額					
		数量					
		金額					
		数量					
		金額					
		数量					
		金額					
植林その他		数量					
		金額					
合 計		金額	\$b	25,440	32,000	30,640	31,360

注 1. 総収入金額は収量全部を販売したものとして計上した。

2. 1アローバ 11.5kg

(単位：ヘツ・ポリビアーノ)

5	6	7	8	9	10	備 考
1,590	1,590	1,200	1,200	1,200	1,200	ha当 機械耕作白米 150a 人力伐開 130a
25,440	25,440	19,200	19,200	19,200	19,200	a当 16
600	600	600	600	600	600	ha当 200
3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	a当 5
160	160	160	160	160	160	ha当 80a
1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	a当 12
30,360	30,360	24,120	24,120	24,120	24,120	

④ 耕種作物経営仕向計画表

仕向先	作物名	単位		1	2	3	4	
		数量	金額					
経営内仕向 (再生産資材として投入する分)	マ イ ス	アローバ		240	480	48	480	
		\$b		1,200	2,400	2,400	2,400	
	短期作物		数量					
			金額					
			数量					
			金額					
	永年作物		数量					
			金額					
			数量					
			金額					
	水産物その他		数量					
			金額					
			数量					
			金額					
	計			\$b	1,200	2,400	2,400	2,400

(単位：ヘソ、ポリビアーノ)

5	6	7	8	9	10	備 考
480	480	480	480	480	480	豚飼料1頭 32a
2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	a当 5
2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	

⑤ 耕種作物家計仕向計画表

仕向先	作物名		単位	1	2	3	4	
	家計仕向 (家計として消費する分)	短期作物	陸 稲	数量	アローバ	65	65	65
金額				\$b	1,040	1,040	1,040	1,040
		大 豆	数量	アローバ		5	5	5
			金額	\$b		60	60	60
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
		数量						
		金額						
		数量						
		金額						
	計	数量						
		金額	\$b	1,040	1,100	1,100	1,100	

(単位：ペソ、ポリビアーノ)

5	6	7	8	9	10	備 考
65	65	65	65	65	65	
1,040	1,040	1,040	1,040	1,040	1,040	相当 16
5	5	5	5	5	5	
60	60	60	60	60	60	相当 12
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	

⑥ 耕種作物販売仕向計画表

仕向先	作物名		単位		1	2	3	4
			数量	アローバ				
販売仕向 (販売する分)	短期作物	陸 稲	数量	アローバ	1,275	1,315	1,355	1,525
			金額	\$b	20,400	21,040	21,680	24,400
		マ イ ス	数量	アローバ	560	1,120	720	320
			金額	\$b	2,800	5,600	3,600	1,600
		大 豆	数量	アローバ		155	155	155
			金額	\$b		1,860	1,860	1,860
	永年作物 林産物その他		数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
			数量					
			金額					
計			\$b	23,200	28,500	27,140	27,860	

(注) 1. 販売金額は手取金額とした。

⑦ 肉牛の増殖仕向計画表

年次	成牝牛						0才		
	分娩可能頭数						♀	♂	♀
	3才	4才	5才	6才	7才	計			
1									
2	(10)					(10)	4	4	
3		10				10	4	4	4
4			10			10	4	4	4
5	4			10		14	6	5	4
6	4	4			10	18	7	7	6
7	4	4	4			12	5	5	7
8	6	4	4	4		18	7	7	5
9	7	6	4	4	4	25	10	10	7
10	5	7	6	4	4	26	11	10	10

註 1. 購入頭数は()をもって示す。増殖率80%

⑨ 豚の増殖仕向計画表

年次	1			2			3			4			5		
	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計
導入種豚	2	1	3	2	1	3									
飼育成豚				6	6	12									
飼育仔豚	6	6	12	6	6	12									
(A) 計	8	7	15	14	13	27	3年目以降は2年目								
(B) 販売仕向						成9									
(B) 家計仕向						成12									
(A) — (B)						成3									

註 常時15頭飼育

(単位：頭)

才	2才	種牛	販売			成牛換算 頭数	必要 放牧地 ha	造成牧野 ha	備考
			♀	♂	計				
		(1)				11	5	4	
4		11		4	4	19	10	12	
4	4	11		4	4	23	12	18	
4	4	11		4	4	27	14	22	
5	4	11	10	5	15	34	17	25	
7	6	11		7	7	33	16	27	
5	7	11		5	5	36	18	27	
7	5	11	4	7	11	45	23	27	
10	7	11	4	10	14	54	27	27	

(単位：頭)

6			7			8			9			10			備考
♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	
に同じ															

⑩ 養畜の販売、家計仕向計画表

仕向先	品名	単価	1	2	3	4	
販売仕向	仔牛 (♂)	数量	頭			4	4
		金額	\$b			2,400	2,400
	成牛 (♀)	数量	頭				
		金額	\$b				
	豚 (仔)	数量	頭		12	12	12
		金額	\$b		1,200	1,200	1,200
	豚 (成)	数量	頭		9	9	9
		金額	\$b		3,600	3,600	3,600
	小計	数量					
		金額			4,800	7,200	7,200
家計仕向	豚 (成)	数量	頭		3	3	3
		金額	\$b		1,200	1,200	1,200
	小計	数量					
		金額			1,200	1,200	1,200
	合計	数量					
		金額			6,000	8,400	8,400

(単位：ペソ、ポリビアーノ)

5	6	7	8	9	10	備 考
4	5	7	5	7	10	
2,400	3,000	4,200	3,000	4,200	6,000	1頭 600
	10			4	4	
	8,000			3,200	3,200	1頭 800
12	12	12	12	12	12	
1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1頭 100
9	9	9	9	9	9	
3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	1頭 400
7,200	15,800	9,000	7,800	12,200	14,000	
3	3	3	3	3	3	
1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
8,400	17,000	10,200	9,000	13,400	15,200	

⑫ 農業販売収入総括表

区分		作物など	1	2	3	4	5
耕 種 作 物	短期 作	陸 稲	20,400	21,040	21,680	24,400	24,400
		マ イ ス	2,800	5,600	3,600	1,600	600
		大 豆		1,860	1,860	1,860	1,860
		小 計					
	永年 作物						
		小 計					
	林 産 其 他						
		小 計					
		耕 種 作 物 計	23,200	23,500	27,140	27,860	26,860
	養 畜	牛 豚			2,400	2,400	2,400
			4,800	4,800	4,800	4,800	
養 畜 計			4,800	7,200	7,200	7,200	
合 計		23,200	33,300	34,340	35,060	34,060	

(単位：ペソ、ボリビアーノ)

6	7	8	9	10	備 考
24,400	18,160	18,160	18,160	18,160	
600	600	600	600	600	
1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	
26,820	20,620	20,620	20,620	20,620	
11,000	4,200	3,000	7,400	9,200	
4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	
15,800	9,000	7,800	12,200	14,000	
42,660	29,620	28,420	32,820	34,620	

⑬ 農業経営費 1 (作物別労働力)

区 分		作物など	1	2	3	4	5
耕	短期作物	陸稲(機械)	106	154	202	316	201
		陸稲(焼畑)	520	390	260	195	195
		マ イ ス	180	360	270	180	135
		小 計					
種	永年作物						
		小 計					
物	林産その他						
		小 計					
養 畜	耕 種 作 物 計		806	904	732	691	531
	牧	場	4	48	70	132	167
	養	豚	60	120	120	120	120
	養 畜 計		64	168	190	252	287
総 所 要 労 働 力			870	1,072	922	943	818
同 上 の 内 自 家 労 力			600	600	600	600	600
" 雇 用 労 力			270	472	322	343	218
雇 用 労 働 力 費			2,700	4,720	3,220	3,430	2,180

- (注) 1. 総所要労働力(自家労働力+雇用労働力)を単位人日(man/day)で記入した。
 2. 最下欄は総所要労働力のうち雇用労働力だけを日給単価×人日で表示した。

(単位：労力は人ノ日、労賃はペソ、ポリビマーノ)

6	7	8	9	10	備 考
201	202	202	202	202	
195					
135	135	135	135	135	
531	337	337	337	337	
199	195	193	179	179	
120	120	120	120	120	
319	315	313	299	299	
850	652	650	636	636	
600	600	600	600	600	
250	52	50	36	36	
2,500	520	500	360	360	

㊦-1 農業経営費 1 - 1 賃 耕 費

区 分	作 物 名	1	2	3
ト ラ ク ト ー ル 耕 起	陸 稲	360	720	1,080
	大 豆		360	360
	緑 肥		360	720
	小 計	360	1,440	2,160
ト ラ ク ト ー ル 播 種	陸 稲	84	168	252
	大 豆		324	324
	緑 肥		84	168
	小 計	84	576	744
合 計	444	2,016	2,904	

(注) 4年目以降は自己所有のトラクトールにより耕作する。

(単位：ヘツ、ポリビアーノ)

備	考
1時間 60 ha当 3時間 180	
ha当 0.7時間 42	
ha当 播種 0.7時間 収穫 2.0時間 計 2.7時間 = 162	
ha当 0.7時間	

⑭ 農業経営費 2 (生産直接資材費)

	種類品目	1	2	3	4	5
種子 種 苗 費	陸 稲	390	390	390	429	429
	マ イ ス	40	80	60	40	30
	大 豆		48	48	48	48
	緑 肥		96	192	288	384
	牧 草	480	960	720	480	360
	小 計	910	1,574	1,410	1,285	1,251
肥料 農 薬 費	牛		190	270	310	380
	豚	75	135	135	135	135
	小 計	75	325	405	445	515
動 力 費	陸 稲	40	40	40	89	94
	マ イ ス	16	32	32	12	12
	大豆(緑肥)				44	50
	小 計	56	72	72	145	156
材 料 費	牧 概 杭		1,200	960	960	600
	有 刺 鉄 線		1,200	960	960	600
	小 計		2,400	1,920	1,920	1,200

(注) 購入を必要とするものだけを記入した(自家生産物の現物仕向はふくまない)

(単位：ヘツ、ポリビアーノ)

6	7	8	9	10	備 考
312	312	312	312	312	ha当 3a = 39
30	30	30	30	30	ha当 2a = 10
48	48	48	48	48	ha当 2a = 24
384	528	528	528	528	ha当 4a = 48
360	360	360	360	360	ha当 2a = 120
1,134	1,278	1,278	1,278	1,278	
480	430	500	650	750	1頭 10
135	135	135	135	135	1頭 5
615	565	635	785	885	
92	92	92	92	92	
12	12	12	12	12	
50	57	57	57	57	
154	161	161	161	161	
600	480				100m120.25m 毎1本
600	480				100m120 4段張り
1,200	960				

⑬-1 農業經營費 2 (生産直接資材費)

	種類品目	1	2	3	4	5
小 農 具 費	鹽 稻	500	60	60	60	60
	マ イ ス	150	20	20	20	20
	大 豆	50	10	10	10	10
	牧 草	130	10	10	10	10
	小 計	830	100	100	100	100
飼 料 費	塩		132	228	276	324
	マ イ ス	1,200	2,400	2,400	2,400	2,400
	小 計	1,200	2,532	2,628	2,676	2,724
そ の 他	麻袋(マウス用)	200	400	300	200	150
	"(米用)	500	500	500	550	550
	小 計	700	900	800	750	700

(単位：ヘツ、ポリビアーノ)

6	7	8	9	10	備 考
60	60	60	60	60	
20	20	20	20	20	
10	10	10	10	10	
10	10	10	10	10	
100	100	100	100	100	
408	396	432	540	648	牛1頭年15kg=12
2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	豚1頭年356kg=32a=160
2,808	2,796	2,832	2,940	3,048	
150	150	150	150	150	ha 当 10枚50
400	400	400	400	400	ha 当 10枚50
550	550	550	550	550	

⑮ 農業經營費 3 (固定資産關係)

		1	2	3	4	5	
修理費	建物設備	住宅	—	48	48	48	48
		収納舎	—	54	54	54	54
		豚舎	—	54	54	54	54
		牧柵	—	—	24	43	62
		牛水呑場	—	—	12	12	12
		牛追込場	—	—	15	15	15
		井戸	—	108	108	108	108
	小計	—	264	315	334	353	
	農機具	トラクター	—	—	—	—	720
		エンジン	—	120	120	120	120
		脱穀機	—	45	45	45	45
		脱粒機	—	30	30	30	30
		カルパ	—	—	—	—	—
	小計	—	195	195	195	915	
修理費計	—	459	510	529	1,268		
公租公課	土地建物具						
	租税公課計	—					
減価却費	建物設備	住宅	—	320	320	320	320
		収納舎	—	360	360	360	360
		豚舎	—	360	360	360	360
		牧柵	—	—	100	180	260
		牛水呑場	—	—	20	20	20
		牛追込場	—	—	25	25	25
	井戸	—	180	180	180	180	
	小計	—	1,220	1,865	1,445	1,525	
	大農機具	トラクター	—	—	—	—	4,800
		エンジン	—	500	500	500	500
脱穀機		—	200	200	200	200	
脱粒機		—	130	130	130	130	
カルパ	—	360	360	360	360		
小計	—	1,190	1,190	1,190	5,990		
減価却費計	—	1,410	2,555	2,635	7,515		

(単位：ペソ、ボリビアーノ)

6	7	8	9	10	備 考
—	374	375	375	375	修理係数 3%
—	360	360	360	360	"
—	54	54	54	54	
74	86	96	96	96	修理係数 1%
12	12	12	12	12	" 3%
15	15	15	15	15	" "
108	108	108	108	108	" "
209	1,010	1,020	1,020	1,020	
720	720	720	—	720	
120	120	120	—	120	
45	45	45	—	45	
30	30	30	—	30	
—	—	—	—	—	
915	915	915	—	915	
1,124	1,925	1,935	1,020	1,935	
310	310	310	310	310	
400	400	400	400	400	
360	360	360	360	360	
310	360	400	400	400	
20	20	20	20	20	
25	25	25	25	25	
180	180	180	180	180	20年償却
1,605	1,655	1,695	1,695	1,695	
4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	
500	500	500	500	500	
200	200	200	200	200	
130	130	130	130	130	
360	360	360	360	360	
5,990	5,990	5,990	5,990	5,990	
7,595	7,645	7,685	7,685	7,685	

⑯ 家 計 費

		1	2	3	4	5
主 食	購 入	920	920	920	920	920
	目 給	1,040	1,040	1,040	1,040	1,040
副 食 調 味	購 入	1,700	1,750	1,800	1,900	2,000
	目 給	1,260	1,300	1,370	1,440	1,510
嗜 好 品	購 入	890	940	1,000	1,050	1,100
	目 給					
被 服	購 入	980	1,080	1,200	1,300	1,400
教 育	"	890	950	1,000	1,050	1,100
教 養 文 化	"	200	220	240	260	280
医 療	"	600	620	620	650	650
交 通 通 信	"	200	250	300	350	350
住 居	"	350	350	350	350	400
光 熱	"	300	300	300	310	310
交 際	"	150	150	200	200	250
そ の 他	購 入	520	160	160	190	190
	目 給					
計	購 入	7,700	7,690	8,090	8,530	8,950
	目 給	2,300	2,340	2,410	2,480	2,550
合 計 (購 入 + 目 給)		10,000	10,030	10,500	11,010	11,500

(単位：ペソ、ポリビアーノ)

6	7	8	9	10	備考
920	920	920	920	920	
1,040	1,040	1,040	1,040	1,040	
2,100	2,200	2,300	2,400	2,500	
1,580	1,650	1,750	1,800	1,900	
1,150	1,200	1,250	1,300	1,350	
1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	
1,150	1,200	1,250	1,300	1,350	
300	320	340	360	380	
650	700	700	700	700	
400	400	450	450	450	
500	500	600	600	600	
320	320	330	330	330	
250	250	300	300	300	
220	220	250	250	250	
9,460	9,830	10,390	10,700	11,030	
2,620	2,690	2,790	2,840	2,940	
12,080	12,520	13,180	13,540	13,970	

⑰ 農業経営費総括計画表

費 目	転記される欄と金額	1	2	3	4
雇 用 労 賃	第13表 最下欄 雇用労賃	2,700	4,720	3,220	3,430
種 子 種 苗 費	第14表 種子種苗(小計)欄	910	1,574	1,410	1,285
肥 料 農 薬 費	第14表 肥料農薬 "	75	325	405	445
動 力 費	第14表 動力費 "	56	72	72	145
小 農 具 費	第14表 小農具費 "	830	100	100	100
飼 料 費	第14表 飼料費 "	1,200	2,532	2,628	2,676
修 理 費	第15表 修理費 "		459	510	529
機 械 賃 耕 費	第13表 1 - 1	444	2,016	2,904	—
そ の 他	第14表	700	900	800	750
小 計 (A)		6,915	12,698	12,049	9,360
予 備 費 (B)		692	1,270	1,205	936
(A) + (B) = (C)		7,607	13,968	13,254	10,296
減 価 償 却 費(D)	第15表		1,410	2,555	2,635
合 計 (C) + (D)		7,607	15,378	15,809	12,931

⑱ 農業経営収支計画表

費 目	転記されてる欄と金額	1	2	3	4	
農 業 収 入	耕 種	第3表 最下欄 合計	25,440	32,000	30,640	31,360
	養 畜			6,000	8,400	8,400
	小 計 ①		25,440	38,000	39,040	39,760
農 業 經 営 費 ②	第17表 最下欄 合計	7,607	15,378	15,809	12,931	
農 業 所 得 ① - ② = ③		17,833	22,622	23,231	26,829	
家 計 費 ④	第16表 最下欄 合計	10,000	10,030	10,500	11,010	
農 業 經 営 余 剩 ③ - ④ = ⑤		7,833	12,592	12,731	15,819	

(単位：ペソ・ポリビアーノ)

5	6	7	8	9	10	備 考
2,180	2,500	520	500	360	360	
1,251	1,134	1,278	1,278	1,278	1,278	
515	615	565	635	785	885	
156	154	161	161	161	161	
100	100	100	100	100	100	
2,724	2,808	2,796	2,832	2,940	3,048	
1,268	1,124	1,925	1,935	1,020	1,935	
—	—	—	—	—	—	
700	550	550	550	550	550	
8,894	8,985	7,895	7,991	7,194	8,317	
889	899	790	800	719	832	(A)の10%
9,783	9,884	8,685	8,791	7,913	9,149	
7,515	7,595	7,645	7,685	7,685	7,685	
17,298	17,479	16,330	16,476	15,598	16,834	

(単位：ペソ・ポリビアーノ)

5	6	7	8	9	10	備 考
30,360	30,360	24,120	24,120	24,120	24,120	
8,400	17,000	10,200	9,000	13,400	15,200	
38,760	47,360	34,320	33,120	37,520	39,320	
17,298	17,479	16,330	16,476	15,598	16,834	
21,462	29,881	17,990	16,644	21,922	22,488	
11,500	12,080	12,520	13,180	13,540	13,970	
9,964	17,801	5,470	3,464	8,382	8,516	

⑩ 融資借入返済計画表

借入		返済		1		2		3		4		5	
		金額	元	利	元	利	元	利	元	利	元	利	
1	長期												
	短期	2,000	2,000	100									
2	長期												
	短期	7,000			7,000	350							
3	長期												
	短期	7,000					7,000	350					
4	長期	24,000										4,800	1,200
	短期												
5	長期												
	短期												
6	長期												
	短期												
7	長期												
	短期												
8	長期												
	短期												
9	長期												
	短期												
10	長期												
	短期												
計	元		2,000		7,000		7,000					4,800	
	利息			100		350		350					1,200
	計		2,000	100	7,000	350	7,000	350				4,800	1,200

(単位：ペソ・ポリビアーノ)

6		7		8		9		10		備 考
元	利	元	利	元	利	元	利	元	利	
										年利 5 %
4,800	960	4,800	720	4,800	480	4,800	240			
4,800		4,800		4,800		4,800				
	960		720		480		240			
4,800	960	4,800	720	4,800	480	4,800	240			

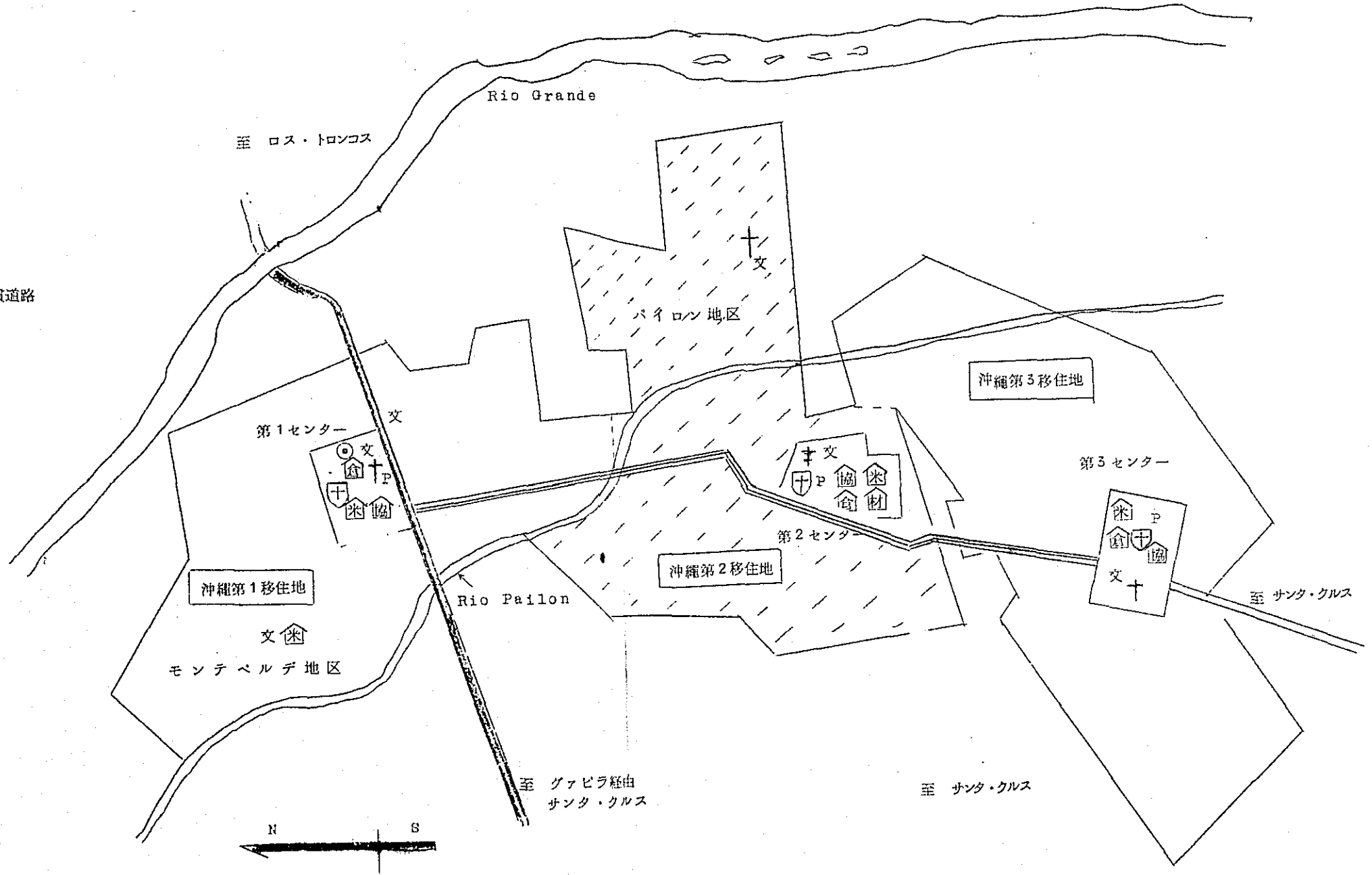
㊸ 資金繰計画表

費 目		転記される欄と金額	1	2	3	4
期首準備金	手持資金		20,000			
	前期繰越金			11,007	16,473	39,073
	借入金(長)	第19表長期借入金				24,000
	〃(短)	第19表短期借入金	2,000	7,000	7,000	
	小計(A)		22,000	18,007	23,473	63,073
期中所要資金	固定資産整備費	第2表最下欄合計	19,026	16,526	3,146	28,372
	農業経営費	第17表最下欄合計	7,607	13,968	13,254	10,296
	家計支出	第16表購入分合計	7,700	7,690	8,090	8,530
	小計(B)		34,333	38,184	24,490	47,198
期末手持資金	(A) - (B) - (C)		△12,333	△20,177	△1,017	15,875
	養畜総生産額	第11表	-	6,000	8,400	8,400
	作物総生産額	第3表	25,440	38,000	39,040	39,760
	生産額計(D)		25,440	44,000	47,440	48,160
	(C) - (D) - (E)		13,107	23,823	46,423	64,035
期末所要資金	土地代	第2表土地購入費	-	-	-	-
	返還元金	第19表返済元金計	2,000	7,000	7,000	-
	〃利息	第19表利息計	100	350	350	-
	計(F)	-	2,100	7,350	7,350	-
次期繰越金 (E)		(F)	11,007	16,473	39,073	64,035

5	6	7	8	9	10	備考
64,035	85,262	95,218	114,743	132,402	129,169	
64,035	85,262	95,218	114,743	132,402	129,169	
1,200	29,300	960	-	30,500	-	
9,783	9,884	8,685	8,791	7,913	9,149	
8,950	9,460	9,830	10,390	10,700	11,030	
19,933	48,644	19,475	19,181	49,113	20,179	
44,102	36,618	73,743	95,562	83,289	108,990	
8,400	17,000	10,200	9,000	13,400	15,200	
38,760	47,360	34,520	33,120	37,520	39,320	
47,160	64,360	44,520	42,120	50,920	54,520	
91,262	100,978	120,263	137,682	154,209	163,510	
-	-	-	-	-	-	
4,800	4,800	4,800	4,800	4,800		
1,200	960	720	480	240		
6,000	5,760	5,520	5,280	5,040		
85,262	95,218	114,743	132,402	129,169	163,510	

沖縄移住地施設配置略図

- ◎ 事業団事務所
- 文 小・中学校
- (+ 病院
- 十 教会
- P 治安事務所
- 協 農業協同組合
- 米 精米所
- 倉 器材倉庫
- 材 製材所
- 舗装道路
- 3 移住地縦貫道路



第四 移住者の資格条件など

1. あっせん家族数

沖縄三移住地には既に、448家族が入植し営農に動んでいます。また、第3移住地には、有効ロッテが15戸残っているため、こゝに入植される方々をあっせんいたします。但し、あっせん対象は沖縄諸島在住者に限ります。

なお、昭和44年度から6ヶ年計画をもって、第3移住地にあらたに196ロッテの造成をおこない、140家族の入植をあっせんすべく目下検討を進めていますので、関係当局の了解をとりつけ完了次第あらためてお知らせすることゝいたします。

2. 資格、条件など

永住の意志をもち、豊富な農業経験を有する開拓意欲旺盛な人で、原則として、1組の夫婦が中心となり、その親子・兄弟で構成される家族。

家族構成は、農業に従事できる人が3人以上いることが望ましく、稼働力の少ない場合は、携行資金の額その他の条件から推して、開拓営農の能力が十分であると判断されれば、移住は可能です。

なお、当然のことながら思想堅実で、犯罪歴を有せず、家族全員健康であることは、必須の要件であります。

3. ロッテの面積、土地代

ロッテ(1区画)は、50ヘクタールに区画されており、移住者の現地到着と同時に1戸当たり1ロッテが無償で配分されます。

4. 移住申込及び渡航手続

移住を希望される方は、事業団の沖縄事務所(那覇市西新町3-79-1 TEL(8)4415)に相談の上、備え付けの書類を提出して下さい。

5. 渡航費用

事業団は、次の渡航費用を移住者に対し支給いたします。これは全額交付されるものであり、返済の要はありません。

(1) 集 結 旅 費

移住される方の郷里出発地（自宅）より、那覇までの運賃実費の半額、並びに那覇港より神戸までの船賃金額。但し共に荷物運賃は除きます。

(2) 船賃、現地交通費

ボリビア国向移住者は、神戸港より大阪商船三井船舶を利用し、アルゼンティン国のブエノス・アイレス港で下船し、陸路ポシートス、ヤクイバ、サンタ・クルス経由、汽車及びバスにより現地へ入植いたしますが、この間の船賃、汽車賃バス代を次の区分により支給いたします。

なお、船賃は全額支給で、その他の現地交通費は打切り補助となりますが、為替相場の大巾変動や、運賃の特別な値上がり等がなければ、支給される金額で十分間に合います。

イ. 船 賃（神戸～ブエノス・アイレス港間、エコノミー・クラス）

12才以上	3～12才未満	1～3才未満
205,740円	102,870円	51,435円

ロ. 汽 車 賃（ブエノス・アイレス～サンタ・クルス間）

12才以上	12才未満
6,900円	3,450円

ハ. バ ス 代（サンタ・クルス～沖縄移住地）

10才以上	3～10才未満
240円	120円

(3) 支 度 金

出発されるに当って、種々準備が必要となりますが、その支度費の1部補助として、12才以上の人に対して7,000円、3才以上12才未満3,500円、3才未満1,750円を夫夫支給いたします。

第五 事業団の融資

移住者のみなさんは事業団の融資を受けることができますが、誰れでも常時融資を受けられるわけではありません。融資する前に、各移住者の営農の実態、事業計画、資金事情、担保、償還能力等を勘案して当事業団の農業貸付基準にもとづいた審査を行ない、貸付の可否、貸付金額、期間その他の融資条件を決定します。

1. 貸付の対象者

経済的に独立して農業を営む人なら、借地農でも分益農でも融資の対象になります。また、これから独立しようとしている人でも対象になります。

2. 貸付対象となる資金使途

農業経営をすすめるについて必要な資金ならば大部分が貸付の対象となります。

(1) 設備資金および長期運転資金

- ア. 自営農として独立するために必要な土地の購入資金
- イ. 営農拡張に必要な土地の購入資金
- ウ. 土地の造成および開墾に必要な資金
- エ. 灌漑、排水施設資金
- オ. 道路造成資金
- カ. 永年作物の植付および管理資金
- キ. 家畜の購入および飼育資金
- ク. 農業用機械、機具購入資金
- ケ. 農産加工施設資金
- コ. 交通運搬機具購入資金
- サ. 家屋、農舎、畜舎、車庫、修理場等の建設資金
- シ. その他

(2) 短期運転資金

- ア. 短期作物の植付、管理資金
- イ. 作物の収穫資金
- ウ. 生産物販売用資材の購入資金
- エ. 農業用機械具および交通運搬機具の補修資金
- オ. その他営農に必要な短期運転資金

3. 貸付金残高の限度

一貸付先につき設備資金および長期運転資金、合せて150万円相当額、短期運転資金30万円相当額です。

4. 貸付金の貸付け比率

貸付けを行なう場合は、所要資金の80%以内に限ります。従って、所要資金のうち、少なくとも20%は自己資金で賄う必要があります。

5. 貸付の期間

設備資金および長期運転資金の貸付については8年以内に、短期運転資金の貸付については、1年6ヶ月以内に、割賦償還または一時償還をしていただきます。また前者について4年以内の据置期間（利息のみ支払い）を設けることができます。

6. 担保および保証人

貸付に際しては、担保物件と1名以上の連帯保証人が必要です。

（注） なお、この外、農協等移住者の団体に対する貸付もあります。

第六 携 行 資 金

1. 土地購入資金

第四の3で説明しましたように、土地は無償で配分されます。

2. 生活資金と當農資金

入植當農開始後、最初の現金収入（險稻）があがるまでの間の生計費として12万円、更に入植当初の固定資産整備費28万円、また當農経費に20万円、計約60万円（約1,670ドル）を最低限現地に携行する必要があります。

固定資産投資の中には、浅層井戸堀削費も含まれています。

3. 携行荷物運賃及び雑費

ブエノス・アイレスより移住地到着までの携行荷物運賃は、近着の現地支部報告によれば、（昭和43年3月上旬船、サン・ファン向移住者7名分の実支出経費より割り出し）次の通りとなっています。但し、これはあくまで1船移住者の平均値であって、携行荷物量の多寡、同船グループの人数等により、多少の変動があることをお含みおき下さい。

携行荷物1トン当り運賃諸掛 約123ドル（44,280円）

内 訳（但しいづれも1トン当り）

ブエノス・アイレス～サンタ・クルス間貨物運賃

105ドル（37,800円）

サンタ・クルス～サン・ファン移住地間トラック運賃

4ドル（1,440円）

通関査証料

12ドル（4,300円）

荷役・連絡等雑費

2ドル（720円）

計

123ドル（44,280円）

上述運賃諸掛のほか、ブエノス・アイレスにおける汽車待ちのための滞在費（日本人会館に宿泊1名分6～7ドル程度）、車中雑費、ボリビア入国入国手続料その他現地到着後農協加入金等が必要となります。

4. 農機具購入代

携行することが望ましい農機具名、型式等については、次章第七に、その必要度に応じ、分類の上詳細に記載してありますので、熟読、検討して下さい。

5. 渡航前後並びに船中生活に要する費用

家族構成により、必要経費に差が出ることは勿論ですが、一応5人世帯で15才以上の者が3人いる場合を想定して試算すれば、概算合計68,000円(約190ドル)と見込まれます。

その必要経費の項目を示せば次の通りです。

(1) 申 込 段 階

ア. 戸籍謄本	2通
イ. 農業従事証明書	1通
ウ. 健康診断料(診察料、証明料)	5人分
エ. 写 真	3件(5人)
オ. 事業団事務所への連絡旅費	2回分

(2) 適 格 決 定 后

ア. 戸籍謄本	4通
イ. 健康証明料	5人分
ウ. 国際種痘証明料(黄熱病を含む)	5人分
エ. 旅券下付料	3通
オ. 写 真	3件(5人分)
カ. 無犯罪証明書	3人分
キ. 事業団事務所への連絡旅費	2回分

(3) 移住センター入所関係

ア. 郷里より那覇までの交通費
イ. " 神戸センターまでの荷物運賃
ウ. 荷物梱包料(船積)
エ. 荷物運搬料(船積)
オ. 共済積立金

以上 約50,000円(約140ドル)

(4) 船中雑費 18,000円(50ドル)程度

第七 携行物資

1. 農 機 具

(1) 携行荷物の船による輸送は、次の基準までは無料で取り扱われます。

12才以上の者 1人につき 60才まで

3才以上12才未満 " 30才まで

1才以上3才未満 " 15才まで

以上の量を超過した荷物は、1才につき495円の超過運賃を支払わなければなりません。

註) 1才とは1尺立方体の容積であって、大型行李1個は約6才です。

(2) 現在使用中のものは、つとめて携行することとし、購入にあたって次の表を参照し、輸送費のことを考え、むやみと必要以上の重量物を購入携行することは避けるべきです。現地であれば購入できない農機具や生活必需品もあるので、なるべく現金を多く携行し、将来の営農に役立たせることが必要です。

(3) 次にかかげる表は、営農上必要と思われる農機具類で内地から持参した方がよいもの、現地で購入した方がよいものに大別して把握してありますから、よく参照の上、取りそろえて下さい。

次表に掲げる農機具がそろっていれば、移住地における営農には特殊な場合を除き、決して支障をきたすことはありませんから、徒らに不必要なものを購入したり、携行しないように注意することが必要です。

(4) 次表に理想、普通、最少限度とあるのは、資金に充分余裕のある人は理想欄、普通の人は普通欄、そして、ぎりぎりいっばいの資金しかない人も最少限度の品目だけは取りそろえて下さい。最少限度の品目だけでも営農に特別支障をきたす心配はありませんが、できれば普通程度の準備をすることが望ましいと考えます。

(5) ハンド・トラクターは、現地の開墾営農の実状からみて、差しあたり特に必要ではありませんが、機械農業に移行後は管理作業機として必要であるし、運搬用としてなら直ちに利用できるので、手持ちがあれば携行した方がよいでしょう。

営農関係必要物資 [内地調達]

(注) 現地調達難易の記号

- A 現地で購入可能だが日本に比し高いもの
- B 現地で購入可能で、日本と余り値段の変わらないもの
- C 現地で購入が困難なもの

品 目	数 量	理 想	普 通	最 少 限 度	現 地 調 達		備 考
					難 易	単 価 (ド ル)	
ミスト機(兼用)	1	○	○		A	170~250	
散粉機(動力)	1	○	○		A	125	
“(手動)	1	○	○	○	A	33	
噴霧機(動力)	1	○			A	170	
“(手動)	1	○	○		A	38	
動力脱穀機	1	○			C	(125~170)	
シ ー ト	(6×7m) 2~4	○	○	○	A	100	
鋸	1~2	○	○	○	C	—	
乾燥機	1	○			A	50	
鎌	2~4	○	○	○	C	—	
鋏	2~4	○	○	○	A	—	
スコップ	2~4	○	○	○	A	1.50~3.40	
剪定バサミ	1~2	○	○		C	—	
ヤスリ	一式	○	○	○	C	—	
砥 石	一式	○	○	○	C	—	
ハンドトラクター	1	○			A	1,300	
吸上井戸ポンプ(ホース付)	1	○	○		A	70	
大工道具	一式	○	○	○	C	—	
エンジン	1~3台	○	○		A	1馬力当 67	現地式はあるが、 日本式は購入困難

〔 現地調達 〕

品 目	数 量	理 想	普 通	最 少 限 度	現地購入単価(ドル)	備 考
ア ッ チ ャ (斧)	2	○	○	○	2	
ホ ッ サ (杭打斧)	2	○	○	○	1.50	
トラサード (鋸 刀)	2	○	○	○	1.60	
ア サ ド ン (平 鋏)	1	○	○		1~1.90	
ボ ル サ (袋)	米 1 町歩に つき 30 枚	○	○	○	0.45	
バラ (除草用スコップ)	2	○	○	○	0.75~1.70	
播 種 器	2	○	○	○	8~12	

〔 参考事項 〕

噴霧機(手動) 野菜用なので余り大型の必要はない。

脱穀機 故障の少ないものを選び、動力はテラー型ハンドトラクターを持って行く人でも、他にディーゼルのエンジン1台位は携行した方がよい。現地では仲々入手できない。

乾燥機 送風機だけ携行すれば、他は現地で組立てられるが、今のところ、移住地にはセンター以外電気がないので、動力を考慮して携行すること。

2. 生活関係物資

(1) 新たに購入しても携行することが望ましいもの(各目の資金能力とにらみ合わせの上、購入すること)

(2) 現地調達難易の記号

- A. 現地で購入も可能だが日本に比し高いもの
- B. 現地で購入可能で、日本と余り値段の変わらないもの
- C. 現地で購入可能で日本より安いもの
- D. 現地で購入困難なもの

品名	数量	現地購入		備考
		難易	単価	
炊事道具		A		
食器類	1式	A		
蒲団	1人1枚以上	D	—	
毛布	1人1枚以上	A	5~11	
蚊帳	2張	D	—	
下着類		A		資金に余裕があればできるだけ多く
白布地(木綿)		A		現地品は品質が悪い
地下足袋		D	—	損耗が激しく、現地では入手困難。なるべく多く携行
作業衣	各人数着	D	—	資金に余裕があればできるだけ多く
合羽	各人1着	A		現地品は高い
ゴム長靴	各人2足以上	A	5.10	現地品は品質が悪い
家庭常備薬	相当量	A		カゼ薬、ガーゼ、傷薬、脱脂綿等
ゴム草履	各人2足	A	0.83	
教科書類		D	—	
文房具	1式	D	—	
水筒	2人に1	D	—	大型のもの
茶箱		D	—	
娯楽品		D	—	碁、将棋等
トランジスタ・ラジオ		A	60~200	短波の聞けるもの

(2) 現在所有していれば携行するとよいもの

品名	数量	現地購入		備考
		難易	単価	
ミシン		A	70~130	
懐中電灯		A	0.83~2.50	
アイロン	1	B		炭火用
自転車		A	40~60	
單車		A	700	
革靴		C	4~13	

(参 考 事 項)

炊 事 道 具

日本式のものは入手が難しいので充分用意すること。釜、すり鉢、おろし金、せいろ等も現地にないので、手持品は全部持って行くこと。また、現地人を使う必要があるので、大型の鍋釜を用意すること。

高 級 瀬 戸 物

破損のおそれがあるので最少限度とし、耐久力のある実用的なホーロー引き等の洋食器（現地にもあるが高い）を忘れないこと。食器類は多い方がよいから、手持品はなるべく多く携行すること。

薬 品

移住地内に診療所があり、大抵のものは入手できるが、当座の家庭薬を携行した方がよい。

食 料 品

現地の食事はヨード分が不足し勝ちなので、海藻類は携行することが望ましい。みそ、正油は品質は若干劣るが、現地製も出廻っているので携行する必要はない。

書 籍 類

専門書、特にスペイン語学習書は、第2母国語となる言葉なので、辞典（西和、和西）会話学習書等用意のこと。

作 業 衣

雨期には蚊がおり、暗い色の作業衣を着ると がつきまってくるので、国防色、薄茶、薄ねずみ系統の色がよい。

3. 一般的注意事項

(1) 男子の服装

現地は大体、亜熱帯の気候で、特に移住地では作業の関係上、作業服は通常の服装であり、冠婚葬祭の場合を除いては、背広を着ることはほとんどありません。しかし、一旦、都市へ出た場合、山岳地帯の都市では勿論、その他の都市でも夜は涼しいので、国際的な品位を保つ関係上背広が必要です。

ナンタ・クルス市における普段の服装は開襟シャツ、スポーツシャツ等長袖および半袖の余り派手でない色柄のものが実用的です。なお、山岳地帯の都市に旅行する時は無論のこと、

サンタ・クルス周辺では乾期には4℃位になることもあり、小雨と南風(寒い)の日が続く独特の天候で、相当に寒さを感じるがあるので、セーター、長袖の下着、ジャンパー類はいうまでもなく、冬物のオーバーすら欲しい位ですから、この様な場合に備え、冬物の背広、スプリングコート等の手持品も携行するとよいでしょう。また、地下足袋で街を歩くのは、体裁が悪いので、靴の2足位は用意した方がよいでしょう。

(2) 女子の服装

移住地内では、蚊、ブヨ等に慣れるまで、ズボンを用いた方がよいので、薄手の布地のズボン、スラックスを3着位用意する必要があります。

シャツ、ブラウスも長袖のものが適しています。和服はめったに着る機会はありません。また、移住地外でズボンを着用するのは、現地の風習上好ましくないので普通の洋装が必要です。

女子のショートパンツ、モンペ、男子の半ズボン、ステテコ姿は、現地では異様なものに見られますから、人前では使用できません。

第八 入 植 の 経 路

従来ボリビア国向移住者は全て、ブラジルのサントス港で下船し、陸路、汽車便で、コロンバ経由、入植していましたが、

- ① 携行荷物の保税輸送に経費、手間の両面で難点があること。
- ② ブラジル、ボリビア両国々境の町コロンバにおける汽車の乗りつき(人員、荷物共)及び通関がめんどうであること。

などの事由から、今後の入植者は、ブエノス・アイレス港で下船し、国際鉄道で、ポシートス、サンタ・クルス経由現地へ向うことになりました。

入植者は、ブエノス・アイレス港到着と同時に、事業団現地支部の指導の下に、携行荷物及び通過荷物の通関検査を受けます。

この検査終了後、サンタ・クルス行の国際列車に乗り込みますが、その間、数日、同市にある日本人会館に滞在することになります。

ブエノス・アイレスからサンタ・クルスまでは約86時間を要します。

サンタ・クルスでは、現地支部職員の出迎えを受け、入国手続を済ませた上、携行荷物を引取り、人員はバスで荷物は農協のトラックを仕立て、移住地の収容所に入ります。

第九 通 関

携行荷物に対する税関検査は、ブエノス・アイレス下船の際と、サンタ・クルス市到着時に、関係国官吏によって行なわれます。

荷物は、通関並びに携行の便を考え大きく①手廻品及び②引越荷物（トランシット荷物と呼ばれます）の2つに分けられます。

②のトランシット荷物は、現地到着までの途次、特別に入用としない品物を取りまとめることとしますので、ブエノス・アイレス港における通関の際、封印してしまうことにより、通関検査を受けずに済みます。

従って、ブエノス・アイレスにおいては、トランシット荷物の重量検査及び手荷物の通関のみが実施されます。サンタクルスでは手荷物及びトランシット荷物共に検査を受けることとなりますが、日本、ボリビア両国政府間で締結している移住協定に基づき引越荷物の無税通関が可能であります。

なお、通常の引越荷物と認めがたい販売に供すると認定される品物については、輸入品扱いされ、重い税金が課せられます。

詳しくは、担当の者からご説明することといたします。

